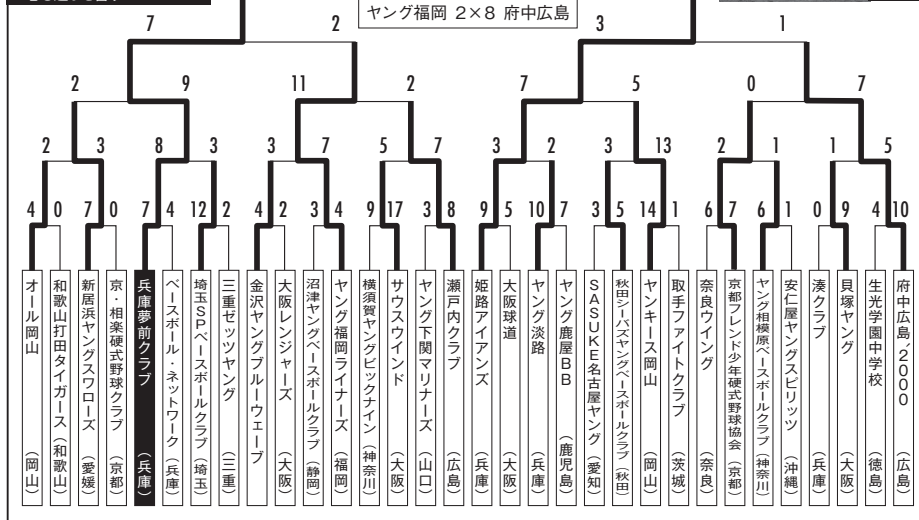




準優勝の姫路アイアンズ。秋の巻き返しを誓う



ヤング最速右腕の田淵一樹(ヤングス岡山)。1回戦では快投



過去10年の優勝チーム

- 2007年 オール岡山(岡山)
- 2008年 ヤングカーブ岡山(岡山)
- 2009年 西宮フェニックス(兵庫)
- 2010年 倉敷ビガーズ(岡山)
- 2011年 東海球友会(愛知)
- 2012年 姫路アイアンズ(兵庫)
- 2013年 兵庫伊丹(兵庫)
- 2014年 神戸須磨クラブ(兵庫)
- 2015年 神戸須磨クラブ(兵庫)
- 2016年 兵庫伊丹(兵庫)



宙を舞う兵庫夢前クラブ・浄徳一智監督。兵庫勢はこれで6年連続の夏制覇となった

魅せた姫路アイアンズ

準優勝の姫路アイアンズの戦いぶりも見事だった。特に準々決勝のヤングス岡山戦は中学野球史上に残る名勝負になった。春の大会では両チームが決勝で対戦。ヤングス岡山が5対2で姫路アイアンズを下して日本一に。姫路アイアンズナインにとってはリベンジの舞台になった。

2回戦のヤング淡路戦では3投手を注ぎ込み、3対2の辛勝。これは準々決勝で小深田大地を起用するための継投策だった。「ヤングス岡山戦は10点取られても最後まで小深田で行くつもりでし

た」との川端秀宣監督の期待に応え、小深田が粘り強い投球でヤングス岡山打線を食い止めれば、野手陣も今までにない集中力を発揮。春にはなかつたエンドランなどの作戦をしつかりと決め、2度の逆転で7対5の勝利を収めた。

敗れたヤングス岡山も「負けてなお強し」。スイングの力強さやシフトの敷き方、間合いの取り方など高校野球に匹敵する洗練された戦術で、春からさらにレベルアップした姿を見せた。

春のリベンジを果たした姫路アイアンズは決勝で惜しくも涙をのんだが、選手各自が打席でルーティーンをしてから構えるなど、プ